

協議員から出された意見

第17回協議会

「必要性の有無（効果と影響）」について

- ・環境アセスメントがどのように実施されていくのかという点、及び交通量については次回説明させていただきたい。
[提出資料補足説明](伊勢田協議員)
- ・大深度を基本としながら検討していくという提案なので、大深度を前提とした資料を出していただきたい。
- ・外環の交通量だけでなく、首都圏全体の将来交通量予測を示すべき。(柴田協議員)
- ・上部の土地収用に対して、国及び都はどのように考えているのか。(栗林協議員)
- ・大深度地下を活用した場合の防災対策に対する言及がない。「安全面」は絶対項目として入れておかなければいけない。(新協議員)
- ・直径18mから16mになった場合の、危険度についての資料があるならば出していただきたい。(濱本協議員)
- ・地表面に出てくるところのイメージを図面等でもう少し細かく示していただきたい。(新谷協議員)
- ・なぜいまだに外環本線の交通量が提示されないのか。
- ・換気塔からの排出ガス影響図の風向や天気等はどのような条件でかかれたものなのか。影響範囲や換気施設の面積についても教えていただきたい。(江崎協議員)
- ・トンネルの深さによる、地表面での変化は基本的にはないと考えている。
- ・将来交通量は現在作業中であるが、現在走行している交通が外環ができればどのように変化するかということについては整理して提出する。
- ・換気施設は、インターチェンジが無い場合でもジャンクションの数は必要であり、最低3箇所は必要。インターチェンジがある場合は漏れ出しを防ぐために換気施設を設置しなければならない可能性がある。数や位置は詳細な換気量計算が今後必要
- ・換気施設の規模等については、実例等で説明したい。
- ・安全性については、最大の関心ごとであり、今後詳細な設計の中でも詰めていきたい。(伊勢田協議員)
- ・買い取り制度は、生活再建のために昨年国の方で作った。
- ・まちづくりに関しては、地元の皆様方、区市等と議論して調整を図っていかなければならない。(成田協議員)
- ・買い取り制度が具体的に文書化されているならば、示していただきたい。
- ・大深度部の上部利用について、各区市の都市整備マスタープランとの整合について、もう少し明瞭に説明すべき。(栗林協議員)
- ・買い取り制度について、今の時点では具体的な制限は設けていない。
- ・マスタープランについては、区市の意見を尊重する必要がある。(成田協議員)
- ・インターチェンジが無いところに換気塔や換気施設を作る場合もありえるのか。
- ・上も下も一緒に議論すると、複雑な議論に成り得る可能性があるのではないか。(倉田協議員)
- ・インターチェンジを極力少なくするという有識者委員会の提言についてどう理解しているのか。(渡辺協議員)
- ・有識者委員会の提言も、「インターなし、地上部なしを原則とする。ただし、地元の意向も聞く。」となっている。(成田協議員)
- ・外環に付属した形で計画されている都道等はなくなるということか。
- ・大深度になると、都市計画法上の都市計画線はどうなるのか。(新協議員)
- ・外環の高速道路に伴う付属街路と外環の有無に関係なく必要な街路の2つに分けて、具体的に議論し整理していかなければならない。(成田協議員)
- ・地上部の都市整備マスタープランは当面外環計画とは切り離すべき。(栗林協議員)
- ・区市それぞれのまちづくりの考え方を無視するわけにはいかない。
- ・買い取り請求については生活再建者に対しても理解しなければならないと考えている。(成田協議員)
- ・買収用地が必要なくなった場合について確認したい。
- ・大深度の場合、ルートは計画変更になるのか、新しい都市計画になるのか明確にすべき。(濱本協議員)
- ・計画線がなくなるところで用地買収を行った場合でも、事業用地の代替地や公共用地として活用していきたい。(成田協議員)
- ・将来交通量の計算は、都市づくりと外環の交通需要との連動を加味すべき。(柴田協議員)
- ・換気塔については、地下の安全対策を含めた上で数を提示していただきたい。(新協議員)
- ・換気塔等については、7区市うち真ん中あたりにある区市が一番敏感になる。(倉田協議員)

意見